

平成20年度 第2回 北九州市地方独立行政法人評価委員会

(会議要旨)

1 日 時： 平成20年7月15日(火) 14:00～16:15

2 場 所： 北九州市役所庁舎 5階 特別会議室A

3 出席者：

委 員(五十音順)

・石田委員長、片山委員、城水委員、福地委員

公立大学法人北九州市立大学

・本村事務局次長、神崎ひびきのキャンパス担当部長、江島経営企画課長、二宮総務課長、柳澤広報入試課長 ほか

市 側

<産業経済局>

・田島学術振興課長 ほか

<財政局>

・近藤都市経営戦略室長、古澤都市経営戦略室次長 ほか

4 議 題

(1) 北九州市立大学の平成19年度業務の実績について

(2) 北九州市立大学の平成19年度財務諸表及び決算報告について

(3) 北九州市立大学の中期計画の総括と今後の取り組みについて

(4) 北九州市立大学の平成19年度財務諸表及び剰余金の繰越承認について

(5) その他・今後の予定等について

(事務局)

ただ今から「平成 20 年度第 2 回北九州市地方独立行政法人評価委員会」を開催させていただきます。

(委員長)

議題として 4 つございますので、この順に沿って進行してまいりたいと思います。

それでは、前回に引き続きまして「北九州市立大学における平成 19 年度業務の実績」の審議、その後、財務諸表及び決算報告等についての報告がありますので、まず、大学のほうから説明をお願いします。

(1) 平成 19 年度業務の実績について、北九州市立大学から説明

(委員長)

ありがとうございました。

委員の皆様、質問等はありませんか。

(委員)

以前お願いしたと思いますが、結局、私たちが評価するのは、計画そのものについて「全然やっていない」、「やっているけど遅れている」、「普通どおり進んでいる」、それから「計画以上に進んでいる」という、こういう評価の視点だと思います。今お話を伺っていると、効果が思った以上に出たから評価が になっている、という印象のものが幾つかあったような気がします。

また、中期計画 6 年間の年度計画を出してほしいということを元々要望していました。

19 年度の計画の実施過程の中で、20 年度のものまで既に取り込めてやっているからということであれば、評価が になると思います。気持ちは分かるんですが、うまくいったとか、効果が出る出ないは、評価の視点の中には入ってこないのではとも思います。

(大学)

効果というのは、やったことに対して成果がきちんと出ていますということと言いたかったということです。

また、その 6 年間の取り組みに関しては承知しています。そのため、19 年度に中期計画の中間総括をやって、今後 3 年間の取り組みを作ったということです。ただ、19 年度に行ったわけですから、20 年度以降の取り組みにしか反映できていないということです。その部分については、20 年度以降は十分配慮した形でやれるというふうに考えています。

それと、6 年間で均等に年度計画を作るというのは、我々もそれに対して評価していただくという形が、大学としての頑張りというのが見えてくるので有り難いのですが、ただ、大学としてはやれるところからやるんだ、というスタンスを強く打ち出さないと、やれることもできなくなると思っています。その観点が年度計画にかなり出ているため、年度計

画そのものは、非常に前のめりになっています。

そのため、大学としてはその辺も若干考慮いただいて、やはり非常に重みのある事業を早い段階でやったものというのは、そういった観点からの評価をしていただきたいと思えます。

(委員)

関連して、20年度から、中期計画に沿った形で年度計画が出てくると考えてよろしいですか。

(大学)

そうなります。

(委員)

私たちが、北九大の研究について期待を持っているのは、地方独立行政法人とは言いながら、北九州市の中にある大学なので、そこでの研究の成果が、行政の施策に反映されて、どのようになったというようなことが出てくると、一番うれしいというところがあります。

(大学)

極力そういう形で行っていきたいと思います。ただ、すべてが反映できているというわけではありませんが。

目立ったものとしては、国際環境工学部での消火剤の共同研究があります。

(委員)

工学部系は割と分かりやすいんですが、文系になるとちょっと分かりにくいところがあります。できれば、そういう形で何か示していただくと有り難いと思います。

それから、地域との連携の中で、NPOなど、いろいろなところとの連携をされていますが、これは地域からの働きかけでということが多いですか。それとも大学からの働きかけなのですか。

(大学)

いろいろなパターンがあります。今回出てくる「コラボラネットワーク」は、先方から話がありました。大学のキャンパスを使わせていただきたいというのが1つの理由だったので、それなら学生も参加できるような形で考えましょうということで、大学のほうから逆に提案しながら、今のよう形になったということです。

また、地域創生学群というのを作っていくのですが、これも大学のほうから、NPOの集まりや個人を回って、どういう形でのネットワークができていくかということ进行调查しています。これは、今後も続けていかなければいけないと考えています。

(委員)

その地域創生学群のイメージが、まだよくつかめていないんですが、地域創生ということですから、その地域に有用な人材を再教育して社会に送りだそうという目標なのですか。

(大学)

そういう趣旨です。90名を定員にコースを3つ設けます。1つは地域マネジメントコースというのを設けています。それと福祉を核に置こうということで、地域福祉コースと、新しい需要層になる主婦層を意識して地域ボランティア養成コースを設ける予定です。

90名のうちの50名は高校からの進学者を考えていて、残り40名については、社会人をぜひ受け入れたいというふうに考えています。

(委員)

地域創生学群で育てた人を、地域のどういうところで活かそうかといった具体的な目標はありますか。

(大学)

地域マネジメントコースは、経済分野、法律分野などを学習の対象にします。ここでの就職先としては、公務員が一番に考えられると思います。あるいはシンクタンク、情報関連産業、NPO、コミュニティビジネスなどがあると思います。

地域福祉コースについては、福祉、メンタルの教育などを行いますが、卒業後の仕事は、福祉士が考えられます。また、全部に共通していますが、NPO等での活躍は期待していません。

地域ボランティア養成コースではボランティア活動やスポーツボランティアなどを考えています。これも公務員やNPO、スポーツ関係のNPOは結構ありますので、そういったところで活躍することなどを考えています。

(委員)

ビジネススクールができたということで、福岡でも2つ目ですから、大変評価できます。その中で、九大と立命館アジア太平洋大と連携するということについて、これは大学同士ですからよく分かりますが、九州・アジア経営塾との連携というのは、具体的に何を連携しようとしているのですか。

(大学)

共同での教材開発だとか、あるいは教員の相互活用といったことを今後進めていければと考えています。

(委員)

九州・アジア経営塾というのは、例えば、中国の高校を卒業した人たちを招いて、日本

の企業文化などいろいろなものを教えようとするわけです。しかし、大学院大学とはレベルが違うと思います。それを、教材を同じにして研究するといっても、少し違うのかなと思うわけです。

(大学)

まだ、入り口の部分なので、今後進めていく中で調整をしていきたいと思います。

(委員)

中期計画に TOEIC と TOEFL の目標値がありますが、それに対する到達度のデータはありますか。また中期計画にオフィスアワー制度の活用がありますが、どの程度活用されていますか。

(大学)

語学の関係については、改めて資料を出させていただきます。参考までに、平均値を説明します。TOEIC の平均は、19 年度からですので 1 年次しかやっていますが、1 学期で 436 点、2 学期で 459 点です。

到達度別クラス編成などいろいろなことをやった結果ですので、そういう形で見ていただければと思います。

(委員長)

他に質問等がなければ、議題 2 の財務諸表の説明、決算報告について、よろしく願います。

(2) 平成 19 年度財務諸表及び決算報告について、北九州市立大学から説明

(委員長)

ありがとうございました。決算報告、財務諸表、貸借対照表等の説明がありました。これについて、質問等がありましたら願います。

(委員)

受託等研究収入が予算減になっていますが、評価書では、中期計画の 147 番において評価が高くなっています。目標の多くは達成しているからということで高い評価になっていますが、ここは、予算額に届かなくても評価が高いのですか。

(大学)

外部研究資金につきましては、5 億円という目標は達成したということで、評価のほうは になっています。

それと、もう 1 点、科学研究費補助金がありますが、これは評価書のほうには入ってい

ます。ただし、科学研究費補助金は預かり金になりますから、この予算決算説明資料には入っていません。

(委員)

退職給付引当について、退職給付増加見積額がありますが、これはどこに積んでありますか。

(大学)

これはあくまでも、仮に退職引当金を計上した場合のものです。退職金については、全額函市の交付金で措置されますので、それは財務諸表にあらっていません。

(委員)

北方駐車場の駐車料金というのは、教職員から徴収するのですか。

(大学)

今までは無料でしたが、それを有料にして月 6,000 円徴収するようにしました。舗装などの整備をして、駐車場としてきちんと運営しています。

(委員)

図書の除却について、本人の負担ではないのですか。

(大学)

本人負担ではありません。

(委員)

教員の人件費の抑制等について、私は基本的には教員の人件費をあまり削減してほしくないと思っていて、良い先生をどんどん連れて来てほしいと思っていますが、人件費の管理について、 に評価されたところの資料の人数は何の人数ですか。

(大学)

ここに書いてあるのは、雇用したい人数であって、いわゆる理想形です。実際にその人数は入っていないわけで、例えば、平成 20 年に 267 人とか、平成 19 年に 264 人とありますが、これはここまで教員を入れたいという希望の数値です。実数は、決算でいうと、251 人です。

(委員)

資産運用、投資活動のところで支出していますが、この資産運用について、プラスマイナスはどこに出てきますか。評価損とか、そういうものは出てこないですか。

(大学)

マイナスはありません。プラスの分だけです。

投資活動については、国債を買っていますので、その分の利息は財務諸表の中に入ります。買えるものは、国債、市債などに限られています。

(委員長)

他に質問等はありませんか。

それでは次の議題に移ります。中期計画の総括と今後の取り組みの問題について、説明をお願いします。

(3) 中期計画の総括と今後の取り組みについて、北九州市立大学から説明

(委員長)

ありがとうございました。ただ今、今後の中期計画の取り組みと、それからその中で2点、変更の説明がありました。これについて、質問、意見等ありましたらお願いします。

(委員)

変更の事由その他はこれでよろしいかと、より具体的な現状を見ながら、なお努力をしましょうということではよろしいかと思えます。教養は TOEIC 何点、TOEFL 何点と書いていて、専門のほうは TOEFL しかないですが、並列しなくてもよいのですか。

(大学)

外国語学部の英米学科については、留学を意識しているため、TOEFL だけにしたということですが。

TOEIC と TOEFL の違いを簡単に説明すると TOEIC というのは、日常コミュニケーションあるいはビジネスシーンでの活用などをみています。また、試験内容も、基本的にはそういうところが背景としてある中でやっていきますが、TOEFL は留学とか学術的な形を中心にやっています。これは、かなり歴史が古いですが、試験の問題もキャンパスライフであったり、学術的な用語であったり、そういうものが出ます。そのため、難易度は少しこちらのほうが高いのではないかという感じはします。

(委員)

右側にその点数の対応が出ていますが、今の話のように、外国の留学を受ける場合に、大体 TOEFL で何点というのが基準になっていて、それに合わせてあるのですか。

(大学)

そうです。英米については、TOEFL でやるという形になっていますので、TOEIC は記

載していません。

(委員)

今までは志願者数 6,000 名という概数で言っていたわけです。今度は志願倍率 5.4 倍以上というコマ幾つの世界で目標を設定してありますので、不確実性があると思います。目標といっても、できればここまでいってほしいという期待値になってしまうのではないかと思います。その客観性については大丈夫ですか。

(大学)

5.4 倍以上というのは、いわゆる全体の募集人員から単純に算出したわけではありません。過去の学科の実力等を踏まえて算出しています。その結果、5.4 倍ということになっていきますので、当然、努力は必要ですが、実現不可能な数字ではないと考えています。

(委員)

学生の定員数が決まっていれば、逆に割り算すれば目標人数は決まってくるので、全体のパイが小さくなっていく中で、それだけの絶対数を本当に確保できるのか、少し心配ではありますが。

だからと言って、ハードルを下げていいというのも問題だと思いますので、頑張っていたくしかないのだろう、と思います。

(委員長)

他に質問等はありませんか。

それでは、最後の議題の、財務諸表と剰余金の翌年度の繰越承認、それから今の中期計画の変更認可について、産業経済局のほうから説明をお願いします。

(4) 平成 19 年度財務諸表及び剰余金の繰越承認について、産業経済局から説明

(委員長)

ありがとうございました。

何か、質問、意見等はありませんか。

それでは、特にないようですので、ただ今、説明していただいた財務諸表及び剰余金の繰越の市の承認、それから、中期計画の変更認可につきまして、当委員会として意見なしということによろしいですか。

(各委員、了承)

(委員長)

それでは次の議題に移りまして、今後の日程について、事務局のほうから説明をお願い

します。

(5) その他・今後の予定等について、事務局から説明

(事務局)

本日は、長時間のご審議、本当にありがとうございました。次回の委員会ですが、8月1日金曜日14時からこの会議室ということでお願いいたします。前回の委員会でもお願いしたとおり、委員の皆さまのご意見等を評価調書にご記入いただき、7月18日、今週の金曜日までに事務局必着にてご送付いただきますようお願いいたします。

次回の委員会では皆さまのご意見を一覧表にして、評価内容を調整していただきたいと考えております。

(委員長)

ありがとうございました。

次回は、この18日までにこの評価表を提出して、8月1日金曜日の14時から、それに基づいて会議を開きたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。